【01】音楽がひらく、人と社会の可能性　～一人一人の創造力と想像力を生かす時代に

【講師】 菅野　恵理子

【要旨本文】

今私たちは、「どんな社会を築いていきたいか」「人類は AI とどう共存するのか」「地球の未来をどうするのか」など、大局的かつ根源的な問いに向き合っています。そこでまず問われるのは「自分がどう感じるか」。それが創造の原点になります。

人は何かを知覚するとき、それが言語化される前に多くのことを察知しています。音楽はまさにその象徴でしょう。実際音楽は原始の時代から存在していました。ハミングしたり、リズムに合わせて身体を動かしたり、簡単な楽器を演奏したり。これが 1 対 1 の毛繕いに代わって社会集団の絆を深め、さらに話し言葉への掛け橋にもなったと言われています。聴くだけでなく、一緒に歌ったり身体を動かすことがエンドルフィン分泌につながり、これも絆を深める一役を担っていました。

一方、音楽は深い叡智を宿しています。世界各地で文化が発達し、様々な音楽や芸術が生み出されてきましたが、音楽家たちは鋭く繊細な感覚をもって、自分の内なる声や公に語られない人々の感情、未来の気配を感じとり、音を通して表現してきました。つまり音楽には、人間の本能の発露と人間の知の深淵が共存しているのです。

世界最高峰のマサチューセッツ工科大学（MIT）では 4 割以上の学生が音楽科目を履修していますが、音楽を通して世界や人間を理解する機会となっています。授業ではまず自分の耳で捉え、感じ、発見することで自らの暗黙知に気づき、なぜなのか？と問いを立てて探究していきます。すると物事の原理や思想などが見え、深層で多くの人やものが繋がっていることがわかります。

またそうした様々な属性や思考をもつ個々の知が共有されることで、新しい視点や盲点に気づき、集団としての知が生み出されます。創造力やイノベーションには多様性が大事という認識も広まっており、昨今分野を超えた対話や協働が増えているのも偶然ではありません。

今は 1 人 1 人が発信するツールを持てる時代となり、これまで見過ごされていたものが可視化されることで多様な視点がもたらされ、より細やかにこの世界を捉えられるようになっています。数千年前からそのような小さな声や感覚を拾い上げて表現されてきたのが音楽です。音楽の中にある創意に触れながら、ご自分の中にある創造力や想像力に気づくきっかけになれば幸いです。

【講師プロフィール】

音楽ジャーナリストとして海外での豊富な音楽教育取材・国際コンクール演奏評をもとに、音楽で人を育て、社会と繋げることをテーマに調査研究・執筆・講演などを行っている。著書に『MIT 音楽の授業』、『ハーバード大学は音楽で人を育てる』『未来の人材は音楽で育てる』など。上智大学外国語学部卒業。在学中に英ランカスター大学へ交換留学し、社会学を学ぶ。全日本ピアノ指導者協会研究会員。